

雪印のスイートコーンシリーズ② ハウスでの『ララミープラス146』 を栽培して

JA しんしのつ
スイートコーン部会
部会長 北村優治

新篠津村は札幌市の東北60 kmに位置する、北海道でも有数の水田地帯です。

ここでのスイートコーン栽培は平成元年頃から増加し、ハウス栽培が注目され6月下旬から全量を札幌市場に出荷しています。

JA しんしのつスイートコーン部会（北村優治部会長）での共計出荷品種は『ララミー』『味来』『ピュアホワイト』となっており、バイカラー種の『ララミー』については『ララミー85』から始まり、『ララミー123』そして今年からは全面的に『ララミープラス146』を導入しました。『ララミープラス』は従来の『ララミー』よりも重量、食味とも優れるため『プラス』を加えた品種名となっています。

『ララミープラス146』は平成16年から試作を始め、3年間の試作の結果、ポリウムがあり穂長も長く2L規格でとれる、甘さだけでなく風味が良く、食感もさくさくしているなどの長所があり、出荷先とも協議して導入に至りました。



▲JA しんしのつスイートコーン部会 北村部会長

『ララミープラス146』の栽培面積は3ha程度で、ハウス移植栽培から始まり、露地栽培まで約100日間の出荷となっています。

スイートコーン部会では2月の栽培技術講習会、4月の育苗講習会、7月の出荷目慣らし会を種苗会社、普及センター、荷受会社の協力のもと実施しています。また、JA しんしのつでは3銘柄が同時に出荷されていることから、3銘柄を詰めたギフトも展開して

おり好評を博しています。

今後とも高品質継続出荷による市場での優位性を保ちながら、部会としての組織づくりに取り組んでいきたいと思えます。



▲『ララミープラス146』ハウス栽培風景



▲ポリウムのある『ララミープラス146』の穂